

土壤改良資材(微生物資材)「エコバイオティクス®根健果樹用」のご使用に際してのお願い

(株)松本微生物研究所

1. 施用前の留意点

「エコバイオティクス® 根健 果樹用」を利用した果樹健全育成施業を実施するに際しては、以下の事前診断を行い、できれば果樹栽培に関する専門的な知識を有する専門家のアドバイスを受けて下さい。

(1) 土壤診断

以前に栽培されていた果樹等の根系残渣が、残されていて「白モンパ病菌」や「ナラタケ病菌」等の繁殖源となっていないことを確認して下さい。また、雑草等の繁茂によって根系を食害するネズミ等の小動物の繁殖場所となっていないことも確認して下さい。このような状態が認められた場合には、根系残渣の除去、焼却処理、客土、ネズミ等の駆除等のできる限りの改善処置を事前に実施して下さい。

(2) 地上部に関する調査

地上部における腐朽や病害等の発生状況を調査し、腐朽部位や病害発生部位が確認された場合には、適切な処置を施して下さい。具体的には、「フラン病」等の発生や剪定部位からの腐朽の進行の有無を確認し、必要に応じて幹部の切除や薬剤塗布等の処置を行って下さい。

(3) 地下部に関する調査

地下部における腐朽や病害等の発生状況を調査し、腐朽部位や病害発生部位が確認された場合には、適切な処置を施して下さい。具体的には、「根頭がん腫病」等の発生や高等菌類による「根株腐朽」等の有無を確認し、必要に応じて幹部の切除や客土等の処置を行って下さい。なお、既に「白モンパ病」や「ナラタケ病菌」による菌糸の広範囲な広がりが確認された場合は、本資材の施用を行っても、健全育成は難しいものと考えられます。

2. 施用時の留意点

「エコバイオティクス® 根健 果樹用」を利用した果樹健全育成施業を実施するには、土壤改良や連作障害抑制に関する基本的な事項に留意し、できれば果樹栽培に詳しい専門家のもとで実施して下さい。

(1) 施用時期

「エコバイオティクス® 根健 果樹用」を利用した果樹健全育成施業は、果樹の養水分吸収を担う根系に対する処置です。したがって、果樹が休眠状態にある冬期～春期が施用時期として望ましく、特に、施業による根系へのストレスを可能な限り低減するために施用時期に関して留意する必要があります。

(2) 施用方法

新しく果樹苗を植栽する場合には、1株の植え穴に対して本資材 0.5 袋を施用して覆土して下さい。以前に栽培されていた果樹の根系残渣の除去作業や小動物を駆除する作業については、事前に実施して下さい。

既存の果樹に施用する場合には、特に根系が休眠している冬季などに行います。なお、根系に「白モンパ病」等による広範囲な罹病部位が確認された場合には、十分な効果を得られない場合もあります。

以上のように長い年月をかけて連作障害が進行した果樹では、肥料や農薬のように単に本資材を施用するだけでは、十分な効果を得ることができない場合が多くなります。

事前に連作障害の原因となっている要因を極力取り除く処置を行うと共に、本資材を適切な時期に適切な方法で施用する必要があります。